みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

企画展「水の器」から常設展へ：水の器からひろがる世界

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保, 正敏, 木田, 歩 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4604

企画展「水の器」から常設展へ
水の器からひろがる世界

解説

久保正敏
木田　歩

企画展「水の器」の「1．生活世界の身近な器」コーナーでは、飲用水の利用で日常的に使われる道具を、「注ぐ」「掬う」「ためる」「運ぶ」「汲む」という身体動作をもとに分類している。地域や時代、技術や素材の違いとは別に、器の形状や容量を見比べていると、器を使う側が自明と考えている適量や適切な所作にも違いのあることが、容易に想像できるだろう。本企画展を通して、人と水の関わりを考えなおすきっかけが提供できればと考えている。

多角的な視点で人と水の関わりを見直すためのきっかけは、企画展示場内にだけあるのではない。ぜひ、常設展示場にも飛び出して欲しい。そこには、飲用水に関わる器だけではなく、人と水の多様な関係を示すモノがある。たとえば、「オセアニア」展示では浮力を利用した大型船に迎えられ、「東アジア（日本の文化）」展示では水力を利用した脱穀機（ばったり）に出会える。飲酒や喫茶の道具、調理具、洗濯用具、農耕牧畜や漁労の道具、染色や製紙の用具の他に、水に関わる宗教的な道具やシンボルに関わるモノなど、枚挙にいとまがない。形は似ていても用途が異なっていたり、用途が同じでも地域の特性を反映して形や素材が異なる例などにも気づく。また、生活世界をまるごと再現しようとしている民家模型を子細に見れば、水をどこから、どのような道具で入手しているのかなど、さまざまな発見があるだろう。

民博の常設展示は、オセアニアから出発し、アメリカ大陸、ヨーロッパ、アフリカ、アジア各地を巡って日本に至るという地域展示と、音楽や言語という通文化展示から構成されている。今まで何気なく見過ごしてきた地域展示のモノたちを、水と人の関わりという通文化的な視点で見直せば、新たな発見と驚きがあるかもしれない。こうして、本企画展は、常設展の新しい見方を提案することも意図している。

常設展示場の地域展示は、見る人が何らかのテーマによって、自らで通文化展示を築き上げる機会にもなるのだ。



写真1
テントの生活空間・コーヒーとベドゥインのもてなし　西アジア展示



写真2
牛車と家財道具　南アジア展示



写真3
合掌造りの民家模型
東アジア（日本の文化）展示



写真4
東南アジア各地の水の器
東南アジア展示